



燃ゆる感動 かごしま国体 2020

The 75th National Sports Festival 2020 in Kagoshima

vol.4
2017.6

鹿屋市

スポーツにより親しめる
機会を市民とともに楽しむ

市民一丸となって、
かごしま国体を成功させます！



主任主事 大山 篤さん 主査 吉田 幸三さん 室長 永山 俊一さん 次長 中倉 俊郎さん 主査 松元 三郎さん

串良平和アリーナ【実施競技:バレーボール】
串良平和公園内にある体育館
屋根は平和の象徴である鳩が翼を広げた姿をイメージ



鹿屋市には
自転車の
プロチームも
あるんだぶ〜

「ひと・まち・産業が躍動する『健康・交流都市かのや』」を目指している鹿屋市。かごしま国体ではボート、バレーボール、自転車(ロード・レース)の3種目が実施されます。ボートは輝北ダム、バレーボールは串良平和アリーナ、自転車(ロード・レース)は、鹿屋市をスタートし、近隣の肝付町や錦江町、南大隅町を駆け抜けるコースとなる予定です。競技ごとに担当を設けており、現在、かごしま国体実行委員会(8月)に向けて各競技団体や県とも調整を進めているところです。

また、鹿屋市には全国で唯一の国立体育大学である鹿屋体育大学があり、スポーツ関連の合宿も盛んです。大学生が指導するスポーツボランティア制度もあり、小さい子どもからご年配の方までスポーツが身近に感じられる土壌があります。かごしま国体に向けての気運をさらに高め、市民総出で盛り上げたいと思います。

○鹿屋市役所 国体準備室 TEL:0994-31-1139

実施競技

- ボート
- バレーボール
- 自転車(ロード・レース)

荒平天神

海に突き出た岩山の頂上付近に神社が建立されており、満潮時には島となるパワースポットです。

information

広報ボランティアを募集します!

平成32年に鹿児島県で開催される第75回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」と第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」の広報ボランティアを募集しています。皆さまのご応募をお待ちしております。

活動概要

県内のイベント等において、啓発グッズ・広報紙の配布や着ぐるみによる啓発活動など両大会に関するPR・広報活動を行います。

●活動期間:平成32年10月末まで ●活動頻度:月1~2回程度

※交通費・ユニフォーム等を支給します。※県準備委員会がボランティア保険に加入します。

募集概要

●募集期間:平成29年7月10日(月)まで ●募集人数:30人程度

●応募要件:活動的な鹿児島県民(18歳以上の方)(大学・短期大学・専門学校・高校の学生など)

●応募方法:下記事務局あてに申込用紙を持参・FAX・メールしてご応募ください。

募集チラシ、申込用紙は県内の大学・短期大学・専門学校で配布しているほか、かごしま国体ホームページからもダウンロードできます。



県民運動ガイドブック

燃ゆる感動かごしま国体の県民運動について、県民の皆さんにご理解いただき、県民総参加での活動を展開するために、「県民運動ガイドブック」を作成しました。

ガイドブックでは、県民運動の5つの基本目標に基づき、具体的な取り組み方などを写真等を使って紹介しています。今後、多くの県民の皆さんの参加・協力をいただき、かごしま国体を盛り上げていきたいと思ひます。かごしま国体ホームページにも掲載してありますので、ぜひ、ご覧ください。



燃ゆる感動かごしま国体 vol.4 2017年6月発行
第75回国民体育大会鹿児島県準備委員会
(事務局:鹿児島県国体・全国障害者スポーツ大会局内)
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号
TEL 099-286-2874 FAX 099-286-5553
E-mail kokutai-koho@pref.kagoshima.lg.jp

かごしま国体
ホームページ



スマートフォン対応
スマートフォンやタブレットでも、かごしま国体の最新情報をチェックできます。



<http://kagoshimakokutai2020.jp/> 鹿児島国体 検索

この広報紙の内容は2017年6月時点のものです。



スポーツクライミング/川畑 イサム選手



ボート/小林 明日香選手(写真左)、後藤 菜月選手(写真右)

CONTENTS

▶インタビュー

桑水流 裕策さん(コカ・コーラレッドスパークス)

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」

- ▶かごしま国体情報 かごしま国体推奨花選定
- ▶アスリートの情熱 後藤 菜月さん(ボート)
- ▶スポーツを知る 馬術/スポーツクライミング
- ▶かごしまっふ 鹿屋市

Interview

コカ・コーラレッドスパークス

桑水流 裕策さん



PROFILE

くわずる・ゆうさくさん 1985年、鹿児島市生まれ。コカ・コーラレッドスパークス所属。鹿児島工業高校時代にラグビーを始め、福岡大学在学中に7人制ラグビー日本代表に初招集。2015年にキャプテンに就任し、2016年リオデジャネイロオリンピックの4位入賞に大きく貢献した



「一人はみんなのために、みんなは一人のために」

2016年のリオデジャネイロオリンピックで7人制ラグビーの日本代表キャプテンとして活躍した桑水流裕策さん。オリンピックに向けた思いや出場できなかった国体の思い出、そして2020年のかごしま国体などについて伺いました。

— 2016年リオデジャネイロオリンピックでの勇姿が、今でも鮮烈に残っています。

「ありがとうございます。15人制と違って、7人制のラグビーはまだ知名度が高いとは言えません。しかし、リオオリンピックで4位に入賞したことで、少しはその存在や楽しさを知ってもらえたのかなと感じています。私自身もキャプテンという大役を任せられ、トライを決めることもできて完全燃焼できたと思っています。2019年にはラグビーワールドカップが日本で、さらにかごしま国体が開催される同年には東京オリンピックも開催されます。選手として常に代表として選ばれるように、これからも頑張っていきたいと思います。」

— ご自身の国体に関する思い出はございますか。

「高校時代、国体の選抜メンバーに選んでいただきましたが、残念ながら九州ブロック大会で敗退してしまい、本大会に出場することはできませんでした。今でも非常に悔しい思い出ですが、選抜メンバーには当時ラグビーが強かった私の母校（鹿児島工業高校）と鹿児島実業高校の選手が大半を占めており、ライバルでありながら頼もしい仲間でもあるという楽しさもありました。同時に、鹿児島県の代表に選ばれたという誇りも強く感じていましたね。」

— 今年2月に、かごしま国体に向けた「鹿児島セブンズクリニック」で指導されました。

「7人制ラグビーの普及も兼ねた講習会で指導させていただき、逆に私がパワーをもらった気がします。」

します。私も高校生の時に鹿児島を訪れたプロラグビーチームの合宿に参加させていただき、非常にいい刺激になった記憶があります。私でも、努力を重ねることでオリンピックに出場することができました。やはり努力すれば夢は叶うと思います。そしてこれからも、鹿児島からオリンピック選手が出てきてほしいと願っています。」

— 2020年のかごしま国体に向けての思いを教えてください。

「リオオリンピックの直前など、鹿児島で合宿する機会も多かったんです。選手やスタッフの中には初めて鹿児島を訪れた人もいて、『あれが桜島ですか?』と聞かれたりするとやっぱりうれしかったですね。かごしま国体は、県民一人ひとりの力を結集して盛り上げてぜひとも成功させてほしいと思います。ラグビーの世界でよく言われる合言葉「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE（一人はみんなのために、みんなは一人のために）」ですね。もちろん私も、微力かもしれませんが貢献したいと考えています。」



講習会に参加した高校生などに指導する桑水流さん(右端)「指導することの面白さ、難しさも感じました」(南日本新聞 2017年2月14日掲載)

アスリートの情熱

後藤 菜月さん

ボート

「前が見えなくても、進めば未来になる」



PROFILE

ごとう・なつきさん 静岡県長泉町出身。高校入学と同時にボートを始め、2016年鹿屋体育大学に入学。現在、大学2年生。昨年開催された岩手国体では、鹿児島県代表として女子ダブルスカルに出場

静岡県出身の後藤菜月さんがボートを始めたのは高校から。中学校時代はバスケットボール部に所属していましたが、「今まで体験したことのない新しいスポーツに挑戦したい」と、ボート部の試乗会に参加したのがきっかけでした。

「風を切る感覚がとても気持ちよくて、まるで水面を滑っているような感じでした。これは今でも変わらない、ボートの醍醐味ですね。」

毎日練習に明け暮れた高校時代。しかし残念ながら、全国大会に出場することはできませんでした。昨年、静岡から鹿屋体育大学に進学したのは、「もっとボートに乗りたい」という思いと「将来は体育教師になって、スポーツの面白さを伝えたい」という思いからでした。

日々の練習が実を結び、昨年開催された岩手国体に鹿児島県代表として出場した後藤さん。自身にとって、初めての全国大会出場でした。「自分でも驚くくらい、ガチガチに緊張してしまって……。スタートからすぐ他の艇に置いていかれて予選敗退でした。全国レベルを肌で感じて、もっともっと練習が必要だと強く思いました。」

現在、休みは日曜日だけ。ほぼ毎日、大学近くの大隅湖で練習に励んでいます。「自分と艇がひとつになって前に進む感覚を「艇が伸びる」という風に表現するのですが、そんな時はあまり力を入れなくても進むんですよ。そうになったら本当に気持ちいいです。ボートは後ろ向きに漕ぐので、前が見えないじゃないですか。けれども自分が漕ぐことによって前に進んで、未来を作る。それって人生にも似ていると思うんですよ。高校の先生の言葉なんですけど(笑)」

今年開催される愛媛国体はもちろん、かごしま国体への出場も視野に入れているという後藤さん。その小さい体には、とてつもなく大きな夢と力があふれていました。



ボート競技の室内用練習器具でトレーニングをする後藤さん

スポーツを知る

かごしま国体で実施される競技の魅力を紹介しします。

馬術

人馬一体となって勝利を目指す



高さや幅、色彩や形状の異なる障害物をミスなく飛び越えていく障害飛越競技

馬術競技はほかの一般的なスポーツと異なり、生き物である馬と選手が一体となって競技を行うところが大きな魅力です。選手が馬の能力を最大限に引き出し、馬も選手の要求に精一杯応えようとする関係が結ばれた時に、初めて「人馬一体」の妙技が繰り広げられます。国体で実施される競技は、馬場馬術競技、障害飛越競技、総合馬術競技の3つ。中でも障害飛越競技には、さらに標準障害飛越競技、スピードアンドハンディネス競技など8つの競技種目があります。

鹿児島県馬術連盟は昭和22年に設立され、現在会員は約70名。昨年開催された岩手国体において優勝や上位入賞した競技種目もあり、現在、かごしま国体に向けて小・中学生の強化選手を指定して強化・育成に力を注いでいます。



バーを飛び越える姿は迫力満点!

スポーツクライミング (リード、ボルダリング)

登るか、落ちるか、シンプルなスポーツ



ボルダリングはロープを使わず、安全確保のためにマットを敷いて競技を行う

東京オリンピックの正式種目に決定したことで認知度が高まり、競技人口も増加しているスポーツクライミング。かごしま国体では、2名1チームで「リード」と「ボルダリング」の2種目を行います。

リードは高さ12m以上の人工壁に作られたルートをロープで安全確保しながら制限時間内に登り、到達高度を競う競技。落下したら競技は終了となります。ボルダリングは高さ5m以下の人工壁に4つの課題を設定し、制限時間内にいかに多くの課題でゴールまで登れるかを競う競技です。制限時間内であれば途中で落ちて何度でもやり直すことができます。鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟ではかごしま国体で活躍できる選手の発掘や育成、競技の普及を目指して体験会やワークショップなどを開催しています。



ゴールした後の達成感はずっと爽快感!

かごしま国体情報

全国から来県する方々を、県民の皆さんが育てたくさんの花で歓迎する「花いっぱい運動」に取り組むため、県準備委員会では、総合開会式・閉会式会場や競技会場、空港、駅、道路、その他周辺地域等を装飾する花として、13種類の推奨花を選定しました。

推奨花は、かごしま国体の開催時期に合わせて開花する、育てやすく、また、鹿児島らしい草花も含まれています。ご家庭や学校、地域の身近なところで育て、花いっぱいのまちでお迎えしましょう。

色とりどりの花でお迎え!



マリゴールド(※) サルビア(※) ニチニチソウ コリウス センニチコウ ジニア
ペントス ポーチュラカ ハゲイトウ ブーゲンビリア ハイビスカス クロトン ローズマリー

(※)=1972年太陽国体推奨花